

科目名	戦略情報論特講	担当者	キハラ ジュン 木原 淳	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、インテリジェンスとカスタマーの関係に関する理論を踏まえて、冷戦期から冷戦後の米国の戦略変遷についての知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>①世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。【A-2:4】</p> <p>②仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>③責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。【A-5:4】</p> <p>④さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-6:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>世界の現状を理解し説明するために、戦略とこれを支える国際環境の分析の関係を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①国際安全保障でインテリジェンスが果たす役割について説明できる。(知識・解釈)</p> <p>②インテリジェンスの作成者とカスタマーが切り分けられていることから生ずるメリット・デメリットと課題の改善策について説明できる。(知識・問題解決)</p> <p>③冷戦期を含む米国の核・軍事戦略の変遷について説明できる。(知識・解釈)</p> <p>④ネットアセスメントがアメリカの国防政策で果たした役割を説明できる。(知識・解釈)</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成につき、基本教材及び参考文献等の読み込みに25時間以上、レポートの草案作成に10時間とManaba-Folioへの初稿提出・添削のやり取りに10時間を要するものとします。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館やインターネットで自律的に関連文献を検索して、レポートを作成する。 Manaba-Folioでのレポート草案提出によるインタラクティブな個別指導を受ける。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題を念頭に基本教材および参考図書等を熟読する。(自習)【SBO①②③④】 レポート課題に関連する関連文献をリサーチする。(自主研究)【SBO①②③】 レポートの草案を作成する。(レポート作成)【SBO①②③④】 複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッション (ディベート)【SBO①②③④】 		
スケジュール	<p>前期は「基本教材1」を、後期は前期の学習を踏まえて「基本教材2」を学習します。</p> <p>前期のレポート課題1については6月30日、レポート課題2については8月15日までに初稿を御提出いただき、9月20日を最終稿の提出期限とします。</p> <p>後期のレポート課題1については10月31日、レポート課題2については12月15日までに初稿を御提出いただき、1月15日を最終稿の提出期限とします。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	最終レポートの完成度 (構成・論理性・引用文献・独創性) を評価します。
	平常評価	20%	レポートの作成過程における質問、初稿提出後のレポートの改善の状況などいかに在宅学習に取り組んだかを評価します。
履修者への要望	<p>日本ではあまりなじみがないにもかかわらず、国際的には重要な役割を果たしている題材を取り扱います。世界史 (特に近現代史)、国際関係論、国際政治、安全保障政策の基本的な知識を習得しているか当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。基本教材2の意義を十分に理解するには、基本教材1・2とその参考図書等の幅広い裾野の積み上げが必要になります。しかし、挑戦の末に頂上にたどり着けば、そこからはこれまでとは全く違って見える世界が広がることになるでしょう。履修登録と同時にその旨を担当教員 (kihara.jun@nihon-u.ac.jp) までメールにて御連絡をお願い申し上げます。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 小谷賢 教材名： 『インテリジェンス—国家・組織は情報をいかに扱うべきか』（ちくま学芸文庫，2012年）ISBN:978-4-480-09418-6 1,200円＋税</p> <p>本教材は、米国の制度等を前提とする類書とは異なり、日本のインテリジェンスの課題に取り組むとの観点から、日本の読者向けに国家インテリジェンスの歴史，組織，プロセス，保全とカウンターインテリジェンス，秘密工作，統制・監視，国際関係等を取り上げた入門書です。</p>
参考図書	<p>北岡元『インテリジェンスの歴史—水晶玉を覗こうとする者たち』（慶応義塾大学出版会，2008年）ISBN:4-7664-1300-8 2,500円＋税 北岡元『インテリジェンス入門—利益を実現する知識の創造』（慶応義塾大学出版会，2009年）ISBN:978-4-7664-1682-4 2,400円＋税 マーク・M・ローエンタール『インテリジェンス—機密から政策へ』（慶応義塾大学出版会，2011年）ISBN:978-4-7664-1826-2 4,200円＋税</p>
履修上のポイント	<p>教材，参考図書等を参照して，外交，安全保障や軍事におけるインテリジェンスという概念とそこでインテリジェンスが果たした役割の理解に取り組んでください。その際，インテリジェンスのカスタマーである政策や戦略の策定者との関係に留意して下さい。</p>
レポート課題 1	<p>国際安全保障を確たるものとする上で国家インテリジェンスが果たす役割について論述せよ。（4,000字程度） 留意点：論述に際しては，インテリジェンスがカスタマーをどう支援するかに着意して下さい。</p>
レポート課題 2	<p>インテリジェンスの作成者とカスタマーが切り分けられていることから生ずるメリット・デメリットと課題の改善策について論述せよ。（4,000字程度） 留意点：教材や参考図書を踏まえて横断的かつ総合的な観点から課題に臨んでください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： アンドリュー・クレピネヴィッチ，バリー・ワッツ 教材名： 『帝国の参謀 アンドリュー・マーシャルと米国の軍事戦略』（日経BP社，2016年）ISBN:978-4-8222-5149-9 2,800円＋税</p> <p>本教材では，冷戦期から冷戦後の四半世紀にかけて，米国の戦略的優位を実現するために，国防総省の幹部が注目すべき課題や活用すべき機会を明らかにしてきたネットアセスメントの知の歴史をたどることができます。</p>
参考図書	<p>岩田修一郎『核戦略と核軍備管理』（日本国際問題研究所，1996年）ISBN:4-8193-0383-X 2,300円＋税（序章（1-14頁）及び第一章（15-44頁）） 浅川広紀『戦後米国の国際関係』（武蔵野大学出版会，2010年）ISBN:978-4-903281-18-6 3,300円＋税 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア，デイヴィッド・A・ウェルチ『国際紛争—理論と歴史 [原書第10版]』（有斐閣，2017年）ISBN:978-4-641-14917-5 3,000円＋税（第5章，第7章4）</p>
履修上のポイント	<p>教材，参考図書等を参照して，冷戦期から冷戦後の米国の戦略の変遷の理解に取り組んでください。その上で，ネットアセスメントが米国を取り巻く環境に関してどのような問題設定を行ったことが爾後の情報活動や戦略の策定等に繋がったのかを考察してください。</p>
レポート課題 1	<p>冷戦期の米国の核・軍事戦略の変遷について論述せよ。（4,000～6,000字程度） 留意点：ここでの冷戦期とはジョージ・H・W・ブッシュ政権までとします。</p>
レポート課題 2	<p>ネットアセスメントがアメリカの国防戦略をどのように向上させたのかを、その問題設定や政策判断に必要な情報をどのように用いたのかという点に触れながら論述せよ。（4,000～6,000字程度） 留意点：戦略とこれを支える国際情報の分析との関係と重要性に着意して下さい。</p>